

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 早生樹活用推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111(内 4386)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,275 千円 (前年度予算額： 2,446 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,446	0	0	0	0	0	0	0	2,446
要求額	2,275	0	0	0	0	0	0	0	2,275
決定額	2,275	0	0	0	0	0	0	0	2,275

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

① 主伐・再造林の低コスト化が期待される早生樹(コウヨウザンやセンダン)やバイオマス発電施設への資源供給が期待される早生樹(ヤナギ、ユーカリ等)の植栽について、全国的に関心が高まっている。早生樹を県内に導入するには、岐阜県の気候に適した樹種であるか調査し、施業体系を確立し、地域森林計画と市町村整備計画に造林樹種として位置付けることが必要である。

② コンテナ苗の培地については、1社を除く県内の殆どの生産者が外国産のヤシ殻を用いているが、国際情勢の不安定化によるヤシ殻の調達不安や、近年の品質劣化、価格上昇を鑑みると、今後のコンテナ苗の価格及び生産の安定化のためには、ヤシ殻に替わる資材の検討が必要である。

ヤシ殻の輸入が滞ることにより、造林用の苗木が大幅に不足し、森林の管理計画の頓挫等、甚大な影響を及ぼすことが想定される。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

① 実証的な調査の結果を基に、早生樹利用に向けた導入指針を順次改訂する。

② ヤシ殻に替わる国産資材の培地を開発する。

(イ) 内容

① 早生樹生育調査

- ・試験植栽地の管理
- ・生育調査
- ・報告書作成

② 早生樹苗培地育成資材の開発

- ・苗木育成資材、技術の開発に関する研究経費

(3) 県負担・補助率の考え方

① 県 県の施業基準の策定のため

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
共済費	5	会計年度任用職員共済費
報酬	1,543	会計年度任用職員報酬
旅費	50	会計年度任用職員通勤費
	183	実証試験の調査費
燃料費	0	公用車燃料費
委託料	317	早生樹試験植栽地の維持管理
消耗品費	177	
合 計	2,275	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画において、「第6章 施策の柱ごとの主な取組み」1(1)「イ100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり」「(b)多様な森林づくりの推進」により早生樹の施業技術の調査・研究を進めることとしている。

(2) 国・他県の状況

国や他県においても早生樹に関する研究事業や実践調査が行われているが、県内での調査事例は少ない。

(3) 後年度の財政負担

① 生育状況を継続的に調査する必要があるため、継続的に必要

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体：県

2) 妥当性：森林・林業基本法第6条の県の責務にあたる。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

多様で健全な森林への誘導や林業の成長産業化に向けて、早く大きく成長する早生樹の導入に向け、県内に適した樹種の選定や、植栽立地、施業体系をまとめた早生樹導入指針を改訂する。

ヤシ殻単独で育成した苗の品質と同水準または近い国内（県内）産資材の条件（複数資材の混合割合など）を明らかにして、苗木生産者に技術移転する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R4)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
①導入指針改訂	なし	調査	調査	調査	改訂	－
②コンテナ苗の 基材改良	なし	改良	改良	改良	技術転移	－

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	・取組内容と成果を記載してください。
令和5年度	<p>・県内の各早生樹試験植栽地について年2回の生育調査を行った。</p> <p>・早生樹の導入に向け「コウヨウザンの植栽における注意点」と「岐阜県における早生樹植栽について（2）～センダンを事例として～」を作成、改訂した。</p> <p>・ヤシ殻に代わり県内で生産されたバーク堆肥もしくはブナシメジの廃菌床を使用した培地でpH、伝導率、肥料成分分析を行い、代替資材としての能力の測定を行った。</p> <p>指標① 目標：改訂 実績：実施 達成率：——％</p> <p>指標② 目標：改良 実績：実施 達成率：——％</p>
令和6年度	<p>・早生樹の導入に向け、各早生樹の成長曲線を作成するため、県内の各早生樹試験植栽地で年2回の生育調査を行った。</p> <p>・ヤシ殻に代わり県内で生産されたバーク堆肥もしくはブナシメジの廃菌床を使用した培地でpH、伝導率、肥料成分分析を行い、代替資材としての能力の測定を行った。</p> <p>指標① 目標：調査 実績：実施 達成率：——％</p> <p>指標② 目標：改良 実績：実施 達成率：——％</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	多様で健全な森林への誘導や林業の成長産業化に向け、早く大きく成長する早生樹への期待が高まっている。 コンテナ苗の基材は、海外産資材に依存しており、輸入が滞るとコンテナ苗の生産に関わるため、国内資材での基材開発が必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	早生樹の施業体系の確立に向け、有効なデータを取得できた。 また、ヤシ殻の代替資材候補の特徴を把握し、基材開発・技術移転に向けた取り組みを順調に進めている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	前例のない取り組みであるため、森林研究所との入念な打ち合わせを行い、課題点等を明確にした後に進めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 実証試験施行地の維持管理
--

(次年度の方角性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 早生樹の適合性を検証することで、最終的に早生樹導入指針改訂に資する。 コンテナ苗の基材改良により、得苗率・苗品質の向上に効果的な方法を検討する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課 組み合わせる理由 や期待する効果 など	
--	--